

酒々井町

# 郷土研究会会報

第128号

平成20年4月1日  
酒々井町郷土研究会  
広報部

## 新年度を迎へ

社会教育課長

櫻井 照嘉



郷土研究会の役員の皆様また会員の皆様には、町の郷土史の研究活動のみならず、文化財の保護・普及や「歴史のまち・酒々井」のPR活動などについてもご尽力いただき、大変感謝しております。

特に昨年度の秋に、文化庁主唱の大イベント『歩き・み・ふれる歴史の道 in 酒々井』において、国史跡本佐倉城跡など町を代表する貴重な文化財の解説員という大役を担っていただき誠にありがとうございます。参加者のアンケートにおいても「解説が大変良かった、わかりやすかった」などの意見が多数を占め、事前の勉強会・実地研修など、皆さんの地道な努力が実った瞬間でもありました。

この郷土研究会のまとまりのある、独創的で、そしていつも活力に満ちた活動には私たちも見習わなければならぬと痛感しております。これから郷土研究会、町教育委員会と二人三脚で、記憶から失われつつある町の歴史・町の文化財について考え、町民の「心を豊かにする活動」を続けてゆければと思っております。

さて、本年度は関東を代表する戦国時代の城郭として、平成十年九月十一日に国史跡指定を受けた本佐倉城跡が指定十周年を迎えます。そこで本佐倉城跡のこれまでの発掘調査の成果発表を受けての講評、周辺城郭における調査例・整備例との比較、特徴や問題点の抽出、これからの本佐倉城跡の整備の方向性などを国立歴史民俗博物館副館長（本佐倉城跡調査整備委員）小野正敏先生にご講演いただく予定になっております。

また、併せて昨年度に実施した『歩

き・み・の』の後継事業として本佐倉城跡周辺のウォーキング大会を行う予定です。その際にはまた解説や案内等において郷土研究会の皆様が協力いただいても必要ですのでよろしく願いたいと思っております。

これからの郷土研究会においては、確かに今までどおり地道にそして確実に研究成果を積み重ねていく作業も必要ですが、対外的に発表する場(例えば展示会・発表会・ガイドなど)を設けてさらに勉強に励むきっかけづくりをすることや、その成果を広く発信し、成果・情報を共有することでもさらにお互い切磋琢磨を行うことでさらにも必要であると考えます。それだけにこれからの酒々井町郷土研究会が担う役割・期待は大きいものであると言えらるでしょう。

最後ではございますが、これからの郷土研究会の更なる発展を祈念し、簡単ではございますが、新年度を迎えるにあたっての挨拶に代えさせていただきます。と思っております。



房総風土記の丘  
散歩

高木 正浩

冬の日、機動力抜群の仲間たちと紅葉の中を気持ちの良い散歩をしました。海拔三十メートルの台地上には、全国的に有名な竜角寺古墳群の百余りの古墳が散在しています。なかでも岩屋古墳は大和橿原の橿山古墳に次いで全国で二番目に大きい方墳で一辺約七十八メートル、間近に見るとさすがに立派でした。

この古墳群は六世紀から七世紀に造られたと考えられ、円墳・方墳・前方後円墳など形や大きさにいろいろ違いがあつて、それぞれの造られた時代や葬られた豪族の地位や勢力を想像すると、ちょうど大和政権の聖徳太子の時代の印旛沼周辺の人々の生活に思いをはせて古代史の中へタイムスリップできるような気がしました。

二百年にわたって造られた古墳のなか、何らかの調査が行われているのは十六基ということなので、これからまだいろいろ判明する夢が残されています。

八世紀になると古墳が造られなくなるのは豪族たちが立派な氏寺を開いてそれまでの土葬から火葬に移り変わっていったからと考えられま

す。この地の豪族の氏寺は、関東で最古の寺院といわれる「竜角寺」だったのでしょう。

次はこの古墳群から真北に延びる「白鳳の道」を歩いて、古代のロマンを秘めた竜角寺へ行ってみようと思いました。



101号古墳

## 一宮・小湊方面に行つて

沖田 美智子

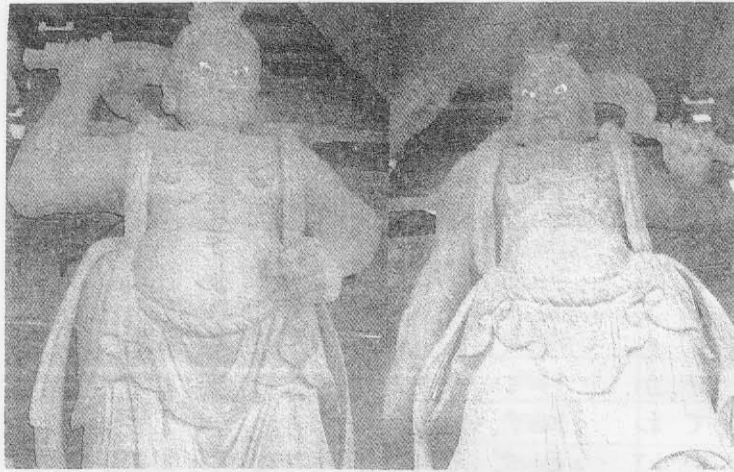
寒い朝であったが、好天に恵まれ一路外房へと向つた。

槇、杉等の常緑の古木が繁る上総一宮玉前神社たまき。境内の周辺が、昔海で玉のように円い岬が海中に突出していたからの名称とのこと、菊の御紋章が多く見受けられ、皇室縁ゆかりの社格の高さがうかがえた。

真つ青な海を眺めながら小湊へと進み、日蓮上人ご生誕の地を参拝。あ誕生寺は高校生の時訪れた処、日蓮上人御幼像に見惚れて心に深く残っていたことを覚えていきます。

ガイドさんの説明で日蓮上人が生誕の時、発生したと伝えられる「三奇瑞」の不思議、旃陀羅の子日蓮、驚きと感銘を受けました。

仁王門の前では宗吾霊堂の仁王門のことが出てきて、「仁王の右左の像の阿吽が反対になつてゐるのは、仏を知らないもの作で、絵に描いた餅である。」その聞き捨てならない言葉に、宗吾の檀家である身内としては、早速霊堂に参上しご対面、確かに誕生寺とは違い、右が吽、左が阿



誕生寺仁王像 (吽)

誕生寺仁王像 (阿)

になつておりました。香取正彦謹作・昭和五十三年十一月作となつていました。

阿吽の呼吸、どちらが正しいのかかではありませんが、どちらでも良いのではと私は思いました。ちょっと面白いお話でした。

陽が落ちる前帰着しました。

翌十九日あの美しい海で漁船の衝突事故という悲しい事態が起こり、心引き締まる想いの見学会になりました。

### 「七草粥を食べる会」に招かれて

遠山野草園 安達 廣子

去年の十二月、郷土研究会の岡田会長さんより、「七草粥を食べる会」のご案内を頂きました。うれしかったので早速参加の返事をしました。そのときから、二月十五日を心待ちにしていました。

中央公民館の玄関で七草粥を食べる会の立看板を見ながら、足早で受けに行く、大沢さんが笑顔で迎えてくださいました。会場には熱気がみなぎり、席に着くと手作りの料理の数々が並んでいました。梅の箸置も、竹の楊枝もみんな手作りで、心のこもったもてなしです。私は「わあ、すごい。わあ、すごい。」と、子供のようにはしゃぎながら、よく見えて手で触ったり、匂いをかいだりして五感を働かせて楽しみました。

早春の香りがする七草粥のおいしいこと、色よし味よし、延命長寿を祈る儀式に、平安朝の上流階級をしのんだひとときもありました。心残りがないように二杯目もいただきました。桜むすび、煮もの、酢の物、

揚げもの、和えもの、香のもの、食べるのがもったいないくらい、おいしくて贅沢な気分を味わいました。随所に工夫や苦心の跡がうかがわれました。犬島さんの司会も懇切丁寧でわかりやすかったです。

昭和五十三年一月十四日に第一回七草粥を食べる会が酒々井町青年研修所で行われ、今は中央公民館で二月に開催されています。田の畦や、野原で若菜を摘む楽しみの他に、様々な苦勞もあるでしょうが、長く続けて欲しい行事です。

お招きいただき本当に有難うございました。皆様のご活躍と、会の益々のご発展をお祈りいたします。

### 「七草粥を食べる会」にて詠む

丸山 緑酔

○ 七種くさや 祖母より伝ふ 粥の味

○ 故郷に 七種揃ひ はやし歌

○ 箸受けに 七草粥の 香の移り



「七草粥を食べる会」

に参加して

伊藤 敦子

今回、二回目の出席となります。毎日、仕事に追われるなか、その季節のものを味わう機会をいただき感謝いたします。

露のとうのほろ苦い味、子ども頃には、食べられなかったものが、年をとるにつれ、何ともいえない味が心にしみておいしくいただきました。また椿の花が食べられることに驚きました。

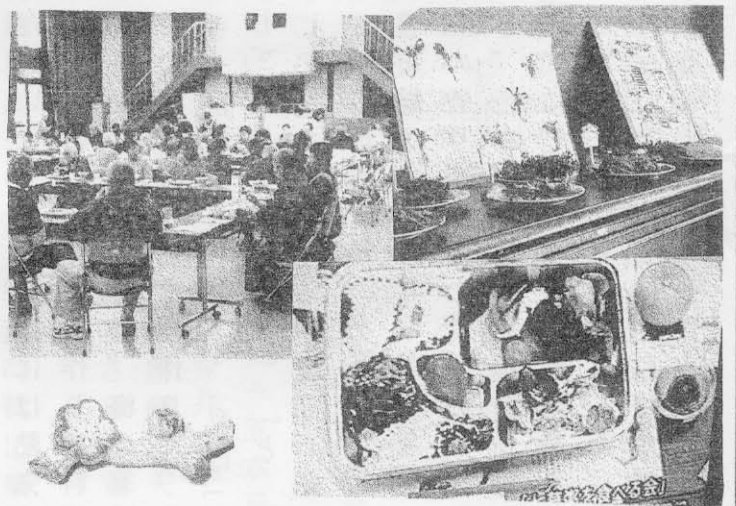
梅の箸置き、とてもかわいくテーブルに置いて、楽しませていただいています。

多くの人々の協力あつての会だとつくづく感じ入りました。

毎年この会が続けられるよう祈っております。

七草ばやし

七草なずな  
唐土の鳥と  
日本の鳥が  
渡らぬ先に  
何草はやす  
七草はやす  
ストトン トントン  
ストトン トントン



郷土研

トピックス!

★ 「酒の井」から水が湧き出るようになりました。近隣の有志の方々のご努力によるものです。ぜひ、御覧ください。

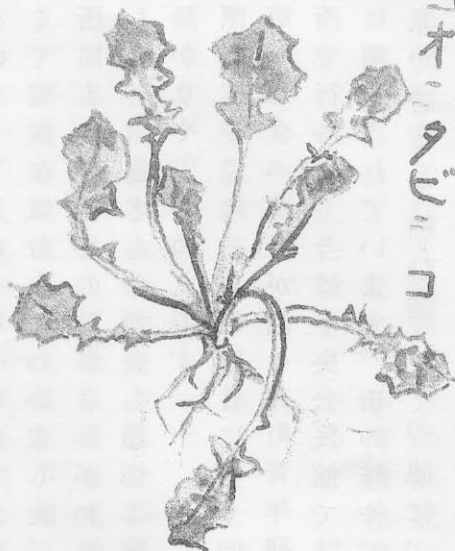
★ 野草部が「本佐倉城跡とその周辺の植物」という写真集を作成しました。昨年一年間に九十日も現地を訪れ、毎月の草花を丹念に写真撮影し整理した力作です。是非、図書館で御覧下さい。

《観察メモ》

コオニタバコ (キク科)

子鬼田平子

春の七草のホトケノザは本種のことです。タバコとは葉が田に平たく張り付いている様子から名付けられました。水田の周りに群生し、ロゼット状で越年し、三月頃から黄色の花を咲かせます。一般にホトケノザといわれているものは、しそ科で別名サンガイグサ(三階草)といわれるもので、花色は赤紫をしています。



コオニタバコ

酒々井町郷土研究会 平成20年度役員・運営委員名簿

職名	氏名	住所	電話
顧問	沖田 善三郎	[Redacted]	[Redacted]
	青木 朝次		
会長	岡田 利光		
	高木 正浩		
副会長	寺本 恵美		
	丸山 正義		
会計	(兼任) 久我 かず子		
	櫻井 徳三		
監事	青藤 ヨシ		
	久我 かず子		
運営委員 (総務部)	(広報部) 木村 雍子		
	(兼任) 岡田 利光		
	穂満 弘道		
	(兼任) 寺本 恵美		
(研修部)	(兼任) 青藤 ヨシ		
	執行 正勝		
	浜口 信義		
	古川 好夫		
	菱輪 光正		
	行武 政市		
	(野草部) 犬島 正子		
	石井 康子		
	大沢 博		
	近田 トメ子		

第三十二回定期総会報告

平成二十年一月二十七日午後一時三十分より、中央公民館研修室に於いて第三十二回定期総会が開催されました。寒い日でしたが好天に恵まれ七十名の会員のご出席のなか、来賓の水藤参事(小坂町長代理)、教育委員会より綿貫主査、酒井副主査をお迎えして、ご挨拶を受けた後、平成十九年度事業報告と決算報告が承認され、続いて二十年度の事業計画案及び予算案が審議され承認されました。



平成20年度 事業計画

酒々井町郷土研究会

回数	事業名	1期		2期			3期			4期			
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	定期総会	○											
2	会報発行	○			○			○			○		
3	講座・学習会	郷土史講座							○				
		町内史跡巡り					○						
		史談会			○		○	○	○		○		○
4	研修・見学会	県外見学会					○						
		日帰り見学会		○								○	
		名勝探訪			○			○			○		○
5	野草の会	七草粥を食べる会		○									
		野草観察会				○					○		
6	役員会・運営委員会	○	○				○			○		○	

見学

案内



県外見学会

榛名・水沢方面

五月十三日(火)～

十四日(水)

宿泊 ホテル松本楼

電話 0279-72-3306

群馬県西部の榛名方面を訪ねて、伊香保温泉に一泊し、水沢と白岩の観音さまにお参りし、西上野の豪族長野氏の居城であった箕輪城跡を探訪します。

榛名湖は、群馬の名山・榛名山の山頂にある淡水のカルデラ湖で、冬のワカサギ釣りが有名です。

榛名神社は、上野国十二社の一つとして古くから信仰を集めている聖地で、長い参道には沢山の古木、巨岩が連なり、樹齢六百年の「矢立杉」は国指定の天然記念物です。

水沢観音は、坂東第十六番水沢寺の千手観音菩薩で推古天皇の頃に建立されたお寺です。現在の朱塗りのお堂は元禄から天明にかけて改築を加えてきたものです。

この観音さまには、伊香保姫を

妬んだ継母が姫を吾妻川に沈めようとした時に救い上げたと言う物語があります。

半透明に光り、まことに美味しい「水沢うどん」。これも観音さまの授かりものと言われています。

白岩観音は、坂東第十五番長谷寺の十一面観音菩薩で、創立は文武天皇のころで、役行者の修行の地とされています。永禄六年(一五六三)武田信玄の箕輪城攻めの兵火で焼失、現在の観音堂は武田勝頼が天正八年(一五八〇)に再建させたものです。

春の野草観察会

四月二十一日(月)

雨天中止

今回は尾上方面・酒々井中学校の裏の方に行きます。

初めての場所なので楽しみに、ご参加ください。

名勝探訪

国会議事堂方面

六月四日(水)

雨天決行

国会議事堂は大正九年に起工し、十六年の歳月をかけて昭和十一年に竣工しました。

国会は衆議院と参議院があります。今回は参議院を職員の方の解説により参観します。なお、手荷物検査があり、そこそこ歩きますので、軽装でお越しください。

次に憲政記念館を参観後、そこでお昼です。(食堂があります)

昼食後は日本の陸地の高さを測量する原点である日本水準原標を見学します。原標は水晶板に零点が刻まれた物です。以上日本の中心地の施設三ヶ所を訪ねます。



< 郷 土 研 日 誌 >

月 日	活 動 内 容	参加者
平成19年		
12. 25	会報印刷 (127号)	4
12. 27	会報発送 (127号)	14
平成20年		
1. 15	運営委員会 (総会準備)	14
1. 22	総会資料の印刷・製本	14
1. 27	第32回定期総会	70
1. 29	会報編集会議	4
2. 2	研修部部会	5
2. 5	日帰り見学会下見 (一宮・小湊方面)	2
2. 13	名勝探訪下見 (芝増上寺方面)	3
2. 4~13	七草粥の準備 (摘み草、買物等)	13
2. 14	七草粥の準備 (調理下拵え)	12
2. 15	七草粥を食べる会	98
2. 18	日帰り見学会 (一宮・小湊方面)	35
2. 19	町内史跡巡り・コース確認	10
2. 29	運営委員会	15
3. 1	史談会 会報編集会議	13 4
3. 7	会報編集会議	4
3. 11	名勝探訪 (芝増上寺方面)	42
3. 13	会報編集会議	4
3. 18	会報編集会議・校正	4
3. 25	会報編集会議・最終校正	4

町内史跡めぐり

酒々井西方面

五月十八日(日)  
小雨決行

京成酒々井駅から中川水神社、築山を経て麻賀多神社、酒の井(地元の方々のご奉仕で立派な史跡となっています。井戸にお水が湧くしかけ。・。・。)、勝蔵院、西井戸を廻り、光

徳院跡を右に見て細い参道を登り愛染明王へ、浅間神社より急坂の山道をたどり根古谷の館で昼食休憩します。午後は妙見社前から水の手わきを通り大佐倉の口の宮、八幡神社に参り、京成大佐倉駅前解散いたします。今回本佐倉城には登城いたしません。また、急坂、山道がありますので足ごしらえは充分にして参加するようにお願いします。

あとがき

国会では解散含みの政局が重視され、新年度への施策決定が滞っているようです。円高と株安、日銀総裁人事、道路特定財源・暫定税率など山積する重要問題の帰趨が決まってしまう。本紙がお手許に届くまでどの程度解決しているでしょうか。郷土研は新年度の運営方針に沿って具体的計画をお知らせするところです。皆様のご参加をお待ちしております。各方面から頂戴していただきご寄稿も底をついてきました。引続き会員各位(会員以外でも大歓迎)の活発なご投稿をお願いします。身近なところの縁起・催し事や故事来歴、なんでも結構です。我が町にある史実を後世に繋ぐため、是非、貴重な情報を頂戴したいものです。

会 計 報 告

<七草粥を食べる会> (平成20年2月15日)  
参加者 84名 招待者 14名 合計 98名  
会費 800円



収入	83,000円
会費収入	800円×84名=67,200円
祝儀等(会費として)	15,800円
支出	77,853円
材料費	41,225円
諸雑費	36,628円
差引	5,147円 (野草会計へ)

<一宮・小湊方面> (平成20年2月18日)

参加者	35名	参加費	2,000円
収入	70,000円		
	@2000×35=70,000		
支出	61,810円		
屋食代	52,500		
保険料	2,730		
諸雑費	6,580		
差引	8,190円 (研修部へ)		

郷土研行事案内

平成20年4月～6月

<p>史談会</p>	<p>4 月 休 講</p>	<p>5 月 休 講 (3日が祝日にあたるため)</p>	<p>6 月 7日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」⑫ 講師：高橋健一先生</p>
<p>野草観察会</p>	<p>4月21日(月) 雨天中止 (当日の問合せ 8:20～8:50 犬島まで)</p> <p>観察場所 酒々井町尾上 方面                  集合時刻・場所 9:25 JR酒々井駅東口(東酒々井側)広場 14:00頃 現地解散                  参加費 100円 弁当・飲み物・敷物等各自持参 (観察後、総合公園にて昼食)</p>		
<p>県外見学会</p>	<p>「榛名・水沢方面」 5月13日(火)～14日(水)                  参加費 21,000円(観光バス利用) 定員 40名                  宿泊先 伊香保温泉 ホテル松本楼 (Tel. 0279-72-3306)</p> <p>集合時刻・場所 7:10 中央公民館前広場                  コース 第1日 公民館→佐倉IC→大泉JC→渋川伊香保IC→水沢&lt;昼食&gt;                  →榛名湖→榛名神社→伊香保温泉・松本楼(泊)                  第2日 宿泊所→水沢寺(水沢観音)→長谷寺(白岩観音)→箕輪城址                  →渋川&lt;昼食&gt;→渋川伊香保IC→大泉JC→佐倉IC→公民館                  18:00頃 帰着予定 (コースに一部変更の場合あり)                  *キャンセル 実施日の5日前までに、寺本へご連絡下さい。</p> <p>《申込受付 4月 8日(火) 9:00～10:00 中央公民館ロビー》</p>		
<p>町内史跡めぐり</p>	<p>「酒々井西方面」 5月18日(日) 小雨決行(当日の問合せ 岡田まで)                  参加費(資料代) 100円 弁当・飲み物、敷物等各自持参</p> <p>集合時刻・場所 9:00 京成酒々井駅東口(タクシー乗り場のある側)前広場                  コース 京成酒々井駅→水神社→中川の双体道祖神→築山→麻賀多神社→酒の井                  →勝蔵院→西井戸→愛染明王→浅間神社→本佐倉の双体道祖神→根古谷の館                  &lt;昼食&gt; 根古谷妙見社→口の宮→八幡神社→大佐倉駅にて解散                  (約8キロ) 16:00頃 解散予定 (コースに一部変更の場合あり)</p>		
<p>名勝探訪</p>	<p>「国会議事堂方面」 6月 4日(火) 雨天決行                  参加費 100円(資料代)</p> <p>集合時刻・場所 8:20 京成酒々井駅・構内改札口前(階段上)                  コース 京成酒々井駅→町屋駅(千代田線乗換え)→国会議事堂前駅→国会議事堂                  見学(参議院)→日本水準原標・憲政記念館見学&lt;自由昼食&gt;の後 現地解散                  13:30頃 解散予定 (コースに一部変更の場合あり)</p> <p>《注》 「見学者名簿」提出の必要がありますので、参加希望者は5月20日までに、必ずご連絡下さい。(連絡先：寺本)</p>		